

令和6年度 徳島市地域ケア推進会議 議事要旨

1 日時

令和7年3月28日（金）午後7時から

2 場所

徳島市医師会館 4階会議室（徳島県徳島市幸町3丁目77番地）

3 概要

議事

(1)取組報告

地域包括ケア推進に向けた令和6年度の取組と方向性

(2)議題

地域課題からの提案

介護予防・生活支援（総合事業）住民主体型通所サービスの展開と課題について

意見交換で出た意見

- ・ 委員：シニアクラブでは、一人暮らしの高齢者だけでなく、日中一人の高齢者も見守りしている。一方的な支援ではなく、3～4人のグループを作り、グループ内で支援し合うことを勧めている。
- ・ 委員：住民主体型で行う場合、小学校区域内ぐらいで支援するといった事業所の方が住民主体型には適していると思う。
- ・ 委員：小地域で、例えば町内会のグループやご近所の顔が見える関係性の中で何か取り組みができたと思う。町内会で、いろんな防災についての意識も高まっているところもあるため、そういった場を活用するのも一つの方法と考える。
- ・ 委員：民生委員さんなどの繋がりを確保し、そういった集合する場所とか活動の場所っていうのを活性化していくことができるのではないかと思う。
- ・ 委員：フレイルチェック項目に口腔機能を追加してもらいたい。
- ・ 委員：地域の色々な特性があると思うので、それを見ながら進める必要があると思う。
- ・ 委員：行政サービスを知り得ない部分も非常に多くあり、そのようなサービスを薬剤師会の運営を絡めて、薬局でチラシを配布するなどして地域の住民の方に周知できると思う。
- ・ 委員：徳島市の人口を増やしていくために、民生委員が、仲人をして子供たちの縁を結ぶ活動をしている。こういった活動から地域が活性化していけば、地域包括ケアという組織もできてくると

考えている。

- ・ 委員：医療的なケアが必要な方が住み慣れた家で生活できるよう、本人やご家族を含めて支援をしていきたいと思う。また、若い方がどんどん減っていくなかで、小さい時から命の大切さや人を思いやることをわかっていただくことが必要と思うので、小中学校とかに出前授業を行っている。
- ・ 委員：地域密着型の特養があり、その地域交流スペース認知症カフェとかが使える。また町内会と連携し、防災について地域の方々の意見を取り入れる必要がある。
- ・ 委員：移動支援型のサービスについて、資格や安全面での問題はどうかなど、住民主体とするサービスは本当に難しい。そこで、もしかしたら行政と私達が、移動支援型サービスをしたいと思っている方と一緒にできるのでないと思う。
- ・ 委員：生産人口が少なくなっているが、まだまだ元気な方がいる。私どもが町内会に入ってその方々の意欲を刺激すれば、住民主体の活動が盛り上がっていくのではないと思う。その刺激の仕方も地域によって様々、そのやり方についてコーディネーターを使って提案していく。これからもできるだけ地域に入って行って皆さんを刺激していきたい。
- ・ 委員：老人ホームにある地域交流ホームというホールを地域の方に使っていただいている。町内会総会などみんなが集まる場所として、老人ホームが地域交流も場となっている。これからも学校やお年寄りも含めて視野を広げていきたいと思う。
- ・ 委員：可能な限り小さい集合体で積み重ねて、さらにその集合体の端っこから繋がる形で可能な限り小さい単位で進めていかないと厳しい状況になっていると思う。
- ・ 委員
 - ①医療介護はインフレに弱く、医療系に進むという人材よりも、物価が上がって価格転嫁がされて賃金が上がる業界の方に進みたいという人材が増えているので、これからインフレになれば医療介護人材の確保はより厳しくなる。
 - ②65歳以上の元気な方に、支援を必要とする方に対してサポートすることが住民の支え合い。働くことが最大の介護予防になる。他の世代の方には一生懸命働いていただいて子育てをし、そういう世代役割分担が必要になる。
 - ③今後、高齢化は変わらず、人口減少は止まらない。団塊の世代ジュニアが後期高齢者になった後に急激に人口減少が起こる。本格的な人口減少までにまだ時間がある。その間に課題に対してある程度対策を立てておく必要がある。